

記 入 日 2012 年 1 月 10 日

1. 概 要

実践団体名	千葉県立東金特別支援学校		
連絡先	0475-52-2542 (学校)		
プランタイトル	防災発信・防災交流～北之幸谷から二市四町へ～		
プランの対象者※1	6.大学生 8.教職員 9.保護者 10.地域住民 14.養護学校児童生徒	対象とする 災害種別※2	7. 災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- 合同防災訓練を行い、地域と一体となって防災に対する意識を高める。
- 講演会や防災安全マップの作成等を通して、地域との情報の共有を図る。
- 授業を通して、障がいのある児童生徒に対する防災教育のポイントを探る。

【プランの概要】

地域の自治会やボランティア部会、長寿会等と特別支援学校との夜間を含めた合同防災訓練を行うことで、地域と一体となって防災に対する意識を高める。生徒会を中心に防災安全マップの作成をしたり、講演会で地元災害の歴史等を学ぶ機会を設けたりして情報の共有を図り、防災について得た情報を学区である二市四町（東金市、山武市、大網白里町、九十九里町、横芝光町、芝山町）に発信していく。また、日々の授業を通して、障がいのある児童生徒に対する防災教育のポイントを探ったり、障がいに応じた防災用具の開発に取り組んだりする。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

「防災ユニバーサルねっと」の構築に向けての取り組みを通して、ネットワーク作りの広がりや深まりが期待できる。「防災マルチパーテーション」の作成と活用を通して、有事の際に自分たちが作成した物が、地域のために役立つという役割意識の高まりが期待できる。

2. プランの年間活動記録 (2011~2012年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	地区との連携	資料作成	17(日) 東金市北之幸谷区定期総会
5月	担当者連絡会議①	資料作成	18(水) 取り組みの概要説明
6月	パーティー試案 (サイズ材料等)	美術授業の年間計画	年間の美術の取り組みでパーティーのデザインを検討し実践
7月	被災地への支援 担当者連絡会議② 高等部調理実習	保護者文書 資料作成 メニュー作成	児童生徒会で未使用のタオル集め 6(水) 行政、福祉等の関係機関 15(金) 缶詰等の保存食利用
8月	地域との炊き出し 防災安全マップ 防災シンポジウム	担当者との連絡調整 情報収集 講師、会場との打合せ	2(火) 地域と生徒会との炊き出し 3(水) 生徒会生徒との実地調査 23(火) 講師: 片田敏孝さん 他
9月	合同防災訓練① (寄宿舎)	大学生との打合せ 内容の検討	26(月) 暗闇の体験 地域の大学生・ボランティア部会との交流 等
10月	合同防災訓練② (全校集会) 防災教育講演会 アドバイザー事業 中学部防災単元 担当者連絡会議③	長寿会との打合せ 内容の検討 講師との打合せ パーティー作成 自主通学生集会① 関係機関打合せ 資料作成	4(火) 児童生徒と長寿会・ボランティア部会との交流 緊急地震速報 5(水) 午前 講師: 国崎信江さん 5(水) 午後 国崎信江さん 授業参観・取り組みの報告・今後について 3(月)~24(月) AED使用 等 25(火) 中間報告
11月	釜石東中への支援 職員研修	資料作成 依頼文作成 業者との連絡調整 車椅子運搬の研究資料	文化祭にて義援金を募る 29(木) 避難シューター、車椅子運び研修(職員)
12月	避難訓練 地域配布用マップ 授業展開	内容の検討 マニュアルの熟読 自主通学生徒集会②	1(木) 大津波警報発令避難訓練 e 防災マップの活用 7(水) 一時避難と二次避難の実際
1月	合同防災訓練③ (消防団演舞) 関係機関訪問 成果資料と防災安全マップの配布	消防団との打合せ 子ども会との打合せ 資料作成・連絡調整 印刷業者との打合せ	28(土) 消防団の演舞の見学と消火放水体験 保護者への引き渡し訓練 10(火) 防災ユニバーサルねっと構築 北之幸谷区全世帯(約450)に配布 関係機関に報告
2月	担当者連絡会議④	資料作成	21(火) まとめと今後の課題の検討
3月	次年度に向けて	資料作成	関係機関との連絡調整に出向く

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： ①】※3

タイトル	担当者連絡会議
実施月日（曜日）	5 / 18（水） 7 / 6（水） 10 / 25（火） 2 / 21（火）
実施場所	東金特別支援学校 会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：遠山一郎（教頭） 瀧川猛（地域支援・防災教育担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分×4回
プログラムのカテゴリ、形式※4	関係機関の防災及び防災教育担当者会議
活動目的※5	災害に強い地域を作る
達成目標	各関係機関の連携強化
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	本校の防災教育の取り組みについて紹介し意見を求める。 関係機関で抱えている課題について意見交換をする。 今後の防災教育についての示唆を得る。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	千葉県教育委員会 東金市総務課消防安全係 東金市教育委員会 東金市社会福祉協議会 北之幸谷区区長、区長代理 東金市消防団 地区社会福祉協議会 地区ボランティア部会 PTA会長 本校職員6名
参加人数	16名
経費の総額・内訳概要	1,656円（飲料代）
成果と課題	【成果】行政、福祉、教育、地域、保護者など、様々な立場からの意見をから、本地域の本校の防災教育の在り方について検討をすることができた。 【課題】それぞれの立場から意見は出るものの、市行政や教育委員会から具体的な提案がされず、公助の部分との連携を具体化していくことが課題として残った。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ②】※3

タイトル	防災マルチパーテーションの作成
実施月日（曜日）	毎週水曜日の選択美術の授業
実施場所	東金特別支援学校 高等部作業室等
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：海老根 香（美術教諭）デザイン等 瀧川 猛（技術教諭）材料加工等
所要時間または「コマ数×単位時間」	25 コマ×40 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	教科学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	パーテーションの作成を通して防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	材料の検討 大きさの検討 塗料の検討（耐水性） デザインの検討 色の検討 デザインや色については、避難所になった時に、安心して落ち着いて過ごせることを意識しながら、生徒と一緒に考え作成していく。 生徒の能力（障害の重い軽い）に合わせて、できる活動を分担して作成していく。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	布、木材、プラスチック段ボール ブックエンド（脚） ターナーイベントカラー（塗料） 小学部の体育や生活単元学習の授業や自閉症等の生徒が国語数学等で落ち着いて学習するために使用するのサイズに合わせて作成。 材質は3種類を使用し、収納、運びやすさ、有事の際の転用（布）を意識して作成した。
参加人数	高等部選択美術生徒・職員 2 4 名
経費の総額・内訳概要	29,065 円（プラ段、両面テープ、塗料）
成果と課題	【成果】自分たちが作ったものが、有事の際には地域や皆のために役立つという意識を持って作成することができた。災害時に安心して色やデザインを考えることで優しさや思いやりの気持ちを深めることができた。 【課題】軽量化や独立させるための材料や脚の工夫（購入したブックエンドの重量が予想より重かった。プラ段の密度ももう少し薄くして軽量化を検討する。）
成果物	防災マルチパーテーション 3 種類

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ③】※3

タイトル	地域との炊き出し体験
実施月日（曜日）	8 / 1（月） 2（火）
実施場所	東金特別支援学校 調理室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：秋庭美保（高等部生徒会） 石橋喜代子（北之幸谷区ボランティア部会） 瀧川 猛（地域支援部長）
所要時間または「コマ数×単位時間」	5時間（8 / 1 買い物準備 8 / 2 炊き出し交流）
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	災害を想定した訓練 災害に強い地域を作る
達成目標	地域のボランティア部会との炊き出しを通しての交流を深める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	生徒会生徒が炊き出しマニュアルからメニューを選ぶ 自分たちで買い物に行く 名札を付けて名前を覚えて交流し、役割を分担する 防災ゲーム（なまずの学校）で交流を深める 感想を発表し合う
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	ご飯は学校の備蓄として備えてある長期保存米（ホッと！ライス）を使用した。（今まで使用したことがなかった） 作り方は炊き出しマニュアルを基本としたが、ボランティア部会の方々は家庭婦人であり、栄養学、調理等に詳しい方もおり、やり方を教わりながら調理を行った。
参加人数	高等部生徒会 5名 地域ボランティア部会 10名 職員 7名
経費の総額・内訳概要	3,225 円（カレー材料）
成果と課題	【成果】お互いの名前を覚え、交流が深まり、やってよかったという感想が多く聞かれた。有事の際には協力し合うことができると確認をすることができた。 【課題】高等部の生徒会生徒が行ったが、対象となる学年や人数の検討が必要である。また、実施の時期についても検討が必要である。
成果物	交流の様子 の 掲示物

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ④】※3

タイトル	防災安全マップの作成
実施月日（曜日）	8 / 1（月） 2（火） 3（水） 8（月） 9（火） 23（火）
実施場所	東金特別支援学校 東金文化会館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：秋庭美保（高等部生徒会） 瀧川 猛（高等部主事）
所要時間または「コマ数×単位時間」	18時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	児童生徒会活動
活動目的※5	防災に関する知識を深める 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	さまざまな災害や安全に関する情報を集約したマップの作成を通して、防災に関する知識を得るとともに、作成したマップの情報を地域に発信する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	それぞれ別に作成されている「地震マップ」「洪水マップ」等を、北之幸谷区を中心として情報を集約する。また、警察署から安全に関する情報を得て加える。更には、元禄地震の津波の記録、崖崩れ危険情報等を加え広域の安全マップも作成する（児童生徒は二市四町から通っており、海あり、山ありの地形である。）。 作成したマップや取り組みの活動の様子を紹介した掲示物を防災シンポジウムで掲示発表した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	関係機関から配布される資料やインターネットから得られる情報の集約。スクールバスを利用しての津波供養碑の見学や避難所の確認。掲示物から配布用資料に情報を移す際のe防災マップの活用。
参加人数	高等部生徒会生徒5名 職員5名
経費の総額・内訳概要	用紙、インク代 等
成果と課題	【成果】北之幸谷区民や区長から期待されていた防災安全マップを形にして、地域450世帯に配布することができ、地域の交流が深まった。 【課題】配布資料に情報を移す際に、生徒におろしている時間がなかった。高等部選択情報の授業等で行えるようにしたい。
成果物	防災安全マップ（掲示用と配布用）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑤】※3

タイトル	防災シンポジウム
実施月日（曜日）	8 / 23（火）
実施場所	東金文化会館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：片田 敏孝（群馬大学大学院教授） 古山 豊（大網白里町郷土史研究会長） 須田 高（山武市ボランティアセンター） 小堀 紘一（北之幸谷区区长）
所要時間または「コマ数×単位時間」	準備 4 時間 シンポジウム 3 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	講演会・学習会
活動目的※5	防災に関する知識を深める 災害に強い地域を作る
達成目標	地元災害の歴史や、最新の防災教育の取り組みを学び、本校の防災教育の取り組みを二市四町へ発信する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講師依頼と講演内容の打合せ 会場の依頼と打合せ 共催（東金市、東金市教育委員会）・後援依頼（山武圏域地域自立支援協議会 社会福祉協議会 等） 広報活動（市町村広報 ホームページ 関係機関への郵送等） シンポジウム打合せ 資料作成（講演内容及び本校の防災教育の取り組みについて） 生徒会掲示物作成 作業製品展示準備 手話通訳や自閉症協会との打合せ
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	手話通訳 会場受付準備 看板 シンポジウム打合せ内容資料 講演の記録（音声と映像、写真） 自閉症協会の掲示と生徒会掲示物展示のためのパネル準備 高等部作業製品展示（防災関連） P T Aと生徒会による東日本大震災への義援金集め（東金市社会福祉協議会へ）
参加人数	326名
経費の総額・内訳概要	49,156円（講師謝金、広報チラシ用紙、おしぼり等）
成果と課題	【成果】行政（議員を含む）、教育（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校）、福祉、一般市民等多くの方からの意見をいただくことができた。防災ユニバーサルねっこの考え方にも賛同していただいた。 【課題】地元稲刈りの期日と重なり、地元住民の参加者が少なくなってしまった。地元小中学校の職員研修と日にちが重なり、義務教育関係者の参加が少なかった。
成果物	講演資料、掲示物

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑥】※3

タイトル	合同防災訓練 I (夜間寄宿舎)
実施月日 (曜日)	9 / 26 (月)
実施場所	東金特別支援学校 寄宿舎
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：日下部友洋 (寄宿舎職員) 瀧川 猛 (地域支援)
所要時間または 「コマ数×単位時間」	50分
プログラムの カテゴリ、形式※4	避難・防災訓練 遊び・楽しみながらの防災
活動目的※5	災害を疑似体験 災害対応能力の育成 災害に強い地域を作る
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎生徒の自治会組織が主催をすることで、自主防災の意識を高める。 ・寄宿舎について地域の方々に知っていただく。 ・防災への関心を高める。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	大学及び学生との打合せ ボランティア部会との連絡と打合せ 寄宿舎生徒の生活が乱れない時間の設定や内容の検討 (眠れなくなること等がないように) 寄宿舎：消灯訓練の準備 自治会組織の役割分担や司会原稿準備 地域支援：防災ゲームの立案と準備
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	消灯訓練のためのランタン ゲームに必要な映像機器と得点版 ゲームの景品としての非常食 防災関連ビデオ 地域の関係者に参観の依頼をし、アンケートによる反省 城西国際大学学生 北之幸谷区ボランティア部会
参加人数	51名 (生徒24 地域大学生3 ボランティア部会6 外部参観8 職員10)
経費の総額・内訳概要	2,496円 (非常食)
成果と課題	<p>【成果】アンケートからは、寄宿舎生一人一人が災害を想定して考える機会となっていた。地域の方が参加して一緒に学ぶ機会があり驚いた。等の意見があった。参加した方、本校の生徒共に笑顔でゲームに参加することができた。握手をして分かれ、とてもよい交流となった。</p> <p>【課題】一人一人が考える機会となっていたが、知識としての定着が課題ではないかという意見があった。</p>
成果物	ゲーム関連資料 (PPT)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑦】※3

タイトル	合同防災訓練Ⅱ（児童生徒会の全校集会）
実施月日（曜日）	10/4（火）
実施場所	東金特別支援学校 体育館及び各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：秋庭美保（高等部生徒会） 瀧川 猛（地域支援）
所要時間または「コマ数×単位時間」	50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練 イベント・行事
活動目的※5	災害対応能力の育成 遊び・楽しみながらの防災 災害に強い地域を作る
達成目標	・北之幸谷区の長寿会、ボランティア部会との交流を図る。 ・防災について考える機会とする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	児童生徒は姉妹学級の活動をする（縦割り） 姉妹学級グループに長寿会とボランティア部会が分かれて入る お互いが名札を付けて自己紹介をする 指示書に従って防災関連グッズを探しに行く（校内探索） 途中に緊急地震速報が流れる（どう行動したかを発表） 非常食を食べながら交流を深める
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	緊急地震速報の音源と音響機器 試食用非常食と保存水 防災に関わるグッズ（懐中電灯、ラジオ、ロープ、非常食 等） グッズを校内に探しに行くための指示書
参加人数	239名 （長寿会16 ボランティア部会3 生徒150 職員70）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】長寿会の方は前日下見に来てくれる方もいた。また当日も楽しく参加できたという感想をいただいた。11月の文化祭にも雨の中、参加をしていただいた。地域との交流を深めることができた。 【課題】地域の方や児童生徒は終始笑顔で交流することができたが、一部職員の反省の中で必要性を疑問視する声があった。職員の意識を高める、意識を変えるための研修等を考えていきたい。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑧ 】 ※3

タイトル	防災教育講演会
実施月日（曜日）	10 / 5（水）
実施場所	東金特別支援学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：国崎信江さん 所属・役職等：危機管理アドバイザー
所要時間または「コマ数×単位時間」	80分
プログラムのカテゴリ、形式※4	学部集会（特別活動）
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	災害から自分で自分の身を守るための知識の獲得
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	学習内容の検討 講師との連絡調整と打合せ 保護者案内 会場の準備
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	講演に必要となる映像・音響機器 パイプ椅子
参加人数	118名（高等部生徒75名 保護者10名 職員33名）
経費の総額・内訳概要	20,000円（講師謝金）
成果と課題	【成果】映像等を交え、知的な障がいがある生徒たちにとっても分かりやすい講演内容であり、質問もたくさん出た。一人一人にとって自分のこととして防災への意識が高まった。 【課題】事後学習で振り返り等を行う時間設定が十分にできなかった。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑨】※3

タイトル	中学部 生活単元学習
実施月日（曜日）	10 / 3（月）～24（月）
実施場所	東金特別支援学校中学部教室及び調理室及び保健室 東金消防署
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：遠藤 麻理子 所属・役職等：中学部教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	14コマ×70分
プログラムのカテゴリ、形式※4	教科活動
活動目的※5	防災に関する知識を深める 災害対応能力の育成
達成目標	身近な「防災」や「救急」に関することを知り、災害への備えに関心をもつことができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもって取り組めるよう、非常用持ち出し袋や非常食、AEDなど、日頃あまり使ったことのない防災・救急グッズを使う。 地域とのつながりを意識できるように、消防署やスーパーなど、身近な施設に校外学習に行くようにする。 非常食の購入では、好みの物や気になった物を自分で選んで購入できるように、いろいろな種類の非常食を見て回るようにする。 ミニ非常用持ち出し袋や呼び子笛の作成では、一人一人の力を発揮できるように、作り方の工夫をする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	消防署 養護教諭 非常用持ち出し袋 スーパーで購入できる非常食 自分で作成する持ち出し袋 呼び子笛
参加人数	17名（生徒12名 教師5名）
経費の総額・内訳概要	材料費生徒一人約1,000円（個人徴収）
成果と課題	<p>【成果】生活単元学習として取り組んだことで、防災を生徒の身近な問題として取り上げ学習することができ、体験を通して生徒の知識が深まり、防災に対する関心も高まった。</p> <p>【課題】中学部2年生徒して取り組んだが、次年度どのように継続していくかが課題となる。</p>
成果物	掲示物 個人で使用する持ち出し袋

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑩】※3

タイトル	大津波警報発令避難訓練（事前に車椅子運び職員研修）
実施月日（曜日）	12 / 1（木）（11 / 29（火））
実施場所	東金特別支援学校 各教室及び3F特別教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：市川 伯人 所属・役職等：(防災・安全)
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×2
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	大津波を想定した二次避難の仕方について確認をする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者にて素案作りの後 3回の会議を経て実施へ ・車椅子を運ぶ職員研修を行ってから実施へ ・児童生徒が安全に安心して避難できるように職員のシュミレーションを積み重ね、実際的な研修も行う
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	車椅子 緊急地震速報（音源）一次避難の訓練
参加人数	253名（生徒153 職員100）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】大津波を想定した避難訓練は実施したことがなく、話し合いではいろいろな意見が出て、防災に対する意識が高まった。エレベーターの使用ができない想定の中で車椅子を安全に（児童生徒が安心して）運ぶためのシュミレーションを行うことができた。</p> <p>【課題】車椅子を安全に（児童生徒は安心して）運ぶための方法が状況によって変わることが予想され、様々な手立てを考えておく必要性があることが分かった。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑪】※3

タイトル	合同防災訓練Ⅲ（消防団演舞 子供会 保護者は引き渡し）
実施月日（曜日）	1 / 28（土） 事前打合せ：12 / 13（火）、1 / 15（日）
実施場所	東金特別支援学校 グラウンド 体育館 3F校舎
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：渡邊和幸（防災・安全） 瀧川 猛（地域支援）
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 避難・防災訓練
活動目的※5	防災に関する知識を深める 技術を身につける 災害に強い地域を作る
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の消防団、北之幸谷区の子ども会、ボランティア部会との交流を図る。 ・防災について皆で考える機会とする。 ・保護者の災害時の対応に対する意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	消防団及び市総務課との打合せ（本校は県立であることから、消防団が敷地内に入り施設設備の確認をしたことがなかった） 子ども会、ボランティア部会との打ち合わせやプログラム作り（消防団の演舞のあとに、校舎内を案内して、避難所としての本校を知ってもらう内容を加える） 子ども会やボランティア部会は、各学部に分かれるためのグループ分けをする（全員が名札を付ける）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	消防団（放水車 消火器 等） 子ども会 ボランティア部会 保護者への引き渡し訓練のための引き渡し確認名簿
参加人数	455名（地域30 消防団20 児童生徒153 職員122 保護者130）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】地域の消防団に本校の施設設備について知っていただくことができた。また、子ども会に本校のことを知っていただくことができ、交流が深まった。消防団の活動を知ることができた。</p> <p>【課題】保護者が、スクールバスや放課後の児童デイサービス等の利用に頼らず、何らかの手段で迎えに来るという意識をどのように高めていくかが課題（訓練に協力するという意識が弱い）。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑫】※3

タイトル	自主通学生徒集会①②
実施月日（曜日）	10/5（水）12/7（水）
実施場所	東金特別支援学校 グラウンド 体育館 2F 3F 教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：瀧川 猛（高等部主事）
所要時間または「コマ数×単位時間」	45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難防災訓練 高等部自主通学生徒集会
活動目的※5	災害対応能力の育成 防災に関する知識を深める
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害から自分の身を守るために必要なことを考え、行動することができる。 ・自分の言葉や表現で、意見を発表することができる。 ・他者の気持ちを知ることができる。
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	<p>一回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報を聞いて行動し発表する ・震災時を思い出しながらブレインストーミングをしたり、具体的な場面設定でロールプレイングをしたりすることで、緊急時に自分で自分の身を守るための方法や、必要となるコミュニケーションについて学べるようにする。 <p>二回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次避難（地震）、二次避難（津波）について、自分たちで考えて行動し、どのように行動したかを発表し合う。冬休みの生活に関連させ、友だちとショッピングセンターで遊んでいる時に火災が起きるという想定で意見を出し合う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	PPT映像資料 音響・映像機器
参加人数	50名（高等部生徒40 職員10）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】自主通学生は、一人であるいは生徒同士で登校や下校をしている時に災害にあう可能性がある。いろいろな人の考えや過去の事例からどのように行動したかを知ったことで、その知識を自分の生活に生かす場面が見られた。</p> <p>【課題】定期的に行うことで定着が図れると感じる。計画的な実施の検討が必要である。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>3回の地域との合同防災訓練と炊き出し交流をするまでの、地域との連絡調整に苦勞した。地域といっても、子ども会、長寿会、ボランティア部会には、それぞれの会長がおり、その会長と直接のやり取りが必要となった。区長との話し合いを多く持ち、年度初めの地区の総会に出席したことで、協力して頂ける土台はできていた。</p> <p>防災ユニバーサルねっこの構築のために開催した防災シンポジウムでは、主催に行政が入ってくれたにも関わらず（会場提供で協力）、前面には出てくれず、区の方から「なぜ行政が出てこないのか」と意見をいただいた。行政としては、震災後すぐの開催であったため、質問攻めにあうのを危惧していた。そのため、自助共助の視点を前面に出した。協力をしたいという組織はあるものの、ネットワーク作りの前面に立ってくれるところがなく、学校が組織をつなぐ役目を担う必要がある。</p> <p>防災マルチパーテーションの作成では、設計段階で試行錯誤した。防災安全マップの作成では、生徒が作成した物をどのような形で地域に返していったらよいか試行錯誤を重ねた。パソコンを利用したことで、次年度は生徒の活動として取り組める。</p>
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>校内では、高等部の作業学習担当、美術担当、自主通学担当、中学部の生活単元学習担当、避難訓練の防災担当、寄宿舎の防災担当のそれぞれと打合せをしながら、校外では、区長、長寿会会長、ボランティア部会会長、子ども会会長、消防団、市行政防災担当、市教育委員会担当、城西国際大学、各講演会講師、各福祉団体等との連絡調整を行わなければならず、苦勞をした。</p> <p>「授業の実践として取り組んでいたことを防災教育の視点で見直す」ということを意識して行い、授業の指導案という形で残したことで、次年度以降同様の取り組みを行っても職員の大きな負担がなく取り組めるようにした。</p>
<p>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</p>	<p>地域の方に来ていただくにあたって、安全には十分気を付けるようにした（長寿会の方は、スリッパの参加では危険なため、外靴のまま参加をしていただいた。）。また、傷害保険にも加入するようにした。</p> <p>天候に左右させる行事があり、雨天時の対応や代替案の作成に苦勞した。夜間の訓練や緊急地震速報の利用で、児童生徒がパニックを起こすことがないように、職員間の共通理解を図るようにした。</p> <p>車椅子の運び方や、津波避難の仕方で職員の意見が分かれることがあった。やってみて、反省を活かすようなスタイルが継続されると、次年度にもつながっていくと感じる。</p> <p>児童生徒に防災教育がどれだけ身についたか、評価や確認をする時間を、なかなか取ることができなかった。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	千葉県教育委員会 東金市教育委員会 城西国際大学 東親会・青年学級	連絡会議・シンポジウム 連絡会議・シンポジウム 合同防災訓練・シンポジウム シンポジウム
保護者・ PTAの組織	東金特別支援学校PTA	引き渡し訓練・シンポジウム・義援金
地域組織	東金市北之幸谷区 北之幸谷区子供会 北之幸谷区長寿会	合同防災訓練・シンポジウム 合同防災訓練 合同防災訓練
国・地方公共団体・ 公共施設	千葉県山武地域振興事務所 東金市 東金警察署 東金市消防署 東金市消防団	ユニバーサルねっと 連絡会議・シンポジウム 防災安全マップ 避難訓練・授業 連絡会議・合同防災訓練
企業・ 産業関連の組合等	ドリームエリア株式会社（まちc o m i）	情報配信メールサービス（ユニバーサルねっと構築に向けての助言・アドバイス）
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	北之幸谷区ボランティア部会 嶺南地区社会福祉協議会 東金市社会福祉協議会 山武市社会福祉協議会 大網白里町社会福祉協議会 山武圏域地域自立支援協議会 中核地域生活支援センター 山武郡市自閉症協会 山武郡市手をつなぐ親の会	合同防災訓練3回・炊き出し シンポジウム シンポジウム・手話通訳 シンポジウム シンポジウム シンポジウム・ユニバーサルねっと シンポジウム シンポジウム
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	大網白里町郷土史研究会	シンポジウム・防災安全マップ

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>○合同防災訓練を行い、地域と一体となって防災に対する意識を高める。 →地域と本校との接点が多くなり、交流が深まった。お互いの名前を覚え、挨拶をしっかりとしていこうという意識が根付き、来校者への挨拶や校外学習ですれ違った方への挨拶が自然とできるようになってきた。</p> <p>○講演会や防災安全マップの作成等を通して、地域との情報の共有を図る。 →防災安全マップの作成は地域からの願いでもあり、全世帯に配布することができてよかった。二市四町の学区をつなぐ足がかりもできつつあり、防災ユニバーサルねっとの概念も浸透しつつある。</p> <p>○授業を通して障がいのある児童生徒に対する防災教育のポイントを探る。 →さまざまな形の防災訓練や防災教育の形があることを提案することができた。参観した他の学校の職員から、「参考になる。すぐに実践に使える。」という感想も多く聞かれた。障がいの重い軽いに関わらず役割を分担し、一人一人の個性や障がいに応じた防災教育を実践することができた。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>地域との合同防災訓練や炊き出し体験では、地域の方より、「落ち着いて行動していて感心した。」「机の下にすぐにもぐっていた。また、私が入るために、椅子を出してくれた。」という感想をいただいた。児童生徒からは、「地域の方と関わってよかった。」「今後、地震や津波が起きた時に、今日のこの経験を活かして炊き出しなどができるとよいと思います。」という感想があった。双方から、『また一緒に活動をしたい』という感想があった。合同防災訓練で本校に来ていただいた長寿会の方が、本校の学校祭である「やまもも祭」にも参加していただけた。お互いの名前を覚えて、挨拶を交わし、握手で分かる交流が実を結んだと感じる。</p> <p>障がいの有無に関わらず、防災教育のポイントは、「命を守る」力を育てることと捉え取り組んできた。自分で自分の身を守るために必要な知識の獲得と実際的な経験を積み重ね、次にどうしたらよいかを考え判断する力を身につけ、そして、身近な人を気にかけて、一緒に行動し助け合う気持ちを育むよう実践を積み重ねた。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>「防災マルチパーテーション」について、幼稚園等からの問い合わせがあった。学区の幼稚園や小学校、地域の公民館等へも普及できるように改良をしていきたい。「防災ユニバーサルねっと」の構築に向けて、山武郡市（学区の二市四町）の行政機関である千葉県山武地域振興事務所や要援護者支援に携わっている山武圏域地域自立支援協議会等をつなぎ、ネットワークの広がりや強化を進めていくとともに、障がいのある児童生徒に対する防災教育を更に推し進めていきたい。次年度の北之幸谷区長からも、「来年度もぜひ継続を！」と力強いお言葉をいただいている。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

5月 応援団が被災地に向けてエール



6月 生徒会被災地への支援 (未使用タオル)



8月 PTAと生徒会で義援金集め



8月 シンポジウム掲示物発表 (生徒会)



8月 防災安全マップ作り
元禄地震津波供養碑見学



8月 地域との炊き出し交流



(自由記述: 1/3)

9月 合同防災訓練Ⅰ 寄宿舍（暗闇体験）



防災クイズで交流を深める



10月 合同防災訓練Ⅱ（全校集会）自己紹介



緊急地震速報が流れた！



<年間>防災マルチパーテーション作成（高等部）



11月 小学部が文化祭で使用



<年間>高等部作業学習



中・高調理で



10月 中学部生活単元学習（怪我）



(自由記述: 2/3)



1 1月 総合的な学習の時間（東金タイム 演劇グループ） タイトル『東北パフェ』
 欽ちゃん&香取慎吾の全日本仮装大賞応募（都内スタジオにて予選参加）
 宮城のイチゴ 福島のサクランボ 岩手の牛乳を使ったアイスクリーム



「山武防災ユニバーサルねっと」へ

山武地域 振興事務 所(県) 九十九里 津波避難 の手引	東上総 教育事 務所 小中 学校	企業 メール 配信 情報提 供サー ビス	城西 国際 大学	芝山 町行政	山武 市行政	横芝 光町行政	大網 白里町行政	九十九 里町行政	東金 市行政	北之 幸谷子 供会
---	----------------------------------	-------------------------------------	----------------	-----------	-----------	------------	-------------	-------------	-----------	-----------------

学校からの発信(ヨコ糸でつなぐ)
 地域との合同防災訓練 日常の授業を通した防災教育児童生徒会の活動
 連絡会議 地元災害の歴史や被災地等の防災情報を学ぶ

山武圏域 地域自立 支援 協議会 要援護者 災害時 避難場所	山武郡市 手をつな ぐ親の会	社会福祉 協議会 二市四町	芝山 町福祉 課	山武 市福祉 課	横芝 光町福祉 課	大網 白里町福祉 課	九十九 里福祉 課	東金 市福祉 課	北之 幸谷長 寿会
--	----------------------	---------------------	----------------	----------------	-----------------	------------------	-----------------	----------------	-----------------

<障害> <高齢>
要援護者支援

↓<広域の津波や崖崩れ情報も>『防災安全マップ配布用』<地域の安全情報も>↓



1.17防災未来賞 ぼうさい甲子園「だいじょうぶ賞」

(自由記述: 3/3)